

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより
NO18

平成29年2月6日(火)
文責 小保 一夫

容量の大きな人間に育てるために！

お父さんお母さん方は、親としてどんな目的を持って子育てをしていますか。親の老後を託すためでも、親の寂しさを紛らわすためでもないはず。また、わが子の生き方を最後まで見守れる親も一般的な順序でいくといえないでしょう。そこで子育てには、はっきりとした目的があると考えます。これをわきまえないと親は子どもをいくつになっても抱え込んでしまい、いつまでも子ども扱いして世話をやき、干渉しすぎて自立を遅らせてしまいます。つまり、子育てにはこんな最終目的があるような気がします。

- ・自分の身は自分で守ることができる人にさせること。
- ・自分を肯定し、他人を受け入れることのできる人にさせること。
- ・世の中の多くの人たちと共に生きていくために必要なルールを身につけさせること。



こんな力を付けさせることは先に生まれた者の責任であり、使命でもあると思います。そして、こんな子育てができたら、最高の「子育て」といえるかもしれません。

「明石家さんま」さんの口癖は、「生きてるだけで丸もうけ！」です。彼はしゃべることで、「生きている」ことを実感しているそうです。ですから、自分をとても大切にしています。そうすることが、他人を大切にすることにつながるからです。さんまさんの笑いは、自分をネタにはしますが、他人を見下しての笑いのネタにすることはほとんどないそうです。



また、江戸時代の僧侶「良寛和尚」は辞世の句として、「裏を見せ、表を見せて、散るもみじ」と詠んでいます。

もみじの葉一枚にしても「表」と「裏」があります。表が綺麗だから裏は必要ないといって裏を無くしてしまえば、せっかくの綺麗な葉の表も存在しなくなってしまうというものです。私たちはこのように、自分の都合の良いものに執着して、都合の悪いものを遠ざけようとする傾向が強い生き物なのです。裏も表も、長所も短所もひっくるめてその人であって、裏を隠す必要なんかはないという究極の人間受容を表現しているのかもしれない。

・・・とはいえ、親は目の前の宿題、提出物などに対して、つい口うるさく大きな声を出してしまいます。勿論それもまた、わが子の成長期には欠かすことのできない大切な指導の一つです。誰もがやらなければならないことを、きちんとできるように導くのも親の大切な責任の一つであるからです。しかし、本質の部分では、楽な方を選ぶような道へ導かないという、親として妥協しない姿勢を持ち続けてほしいと思います。もちろん大人はこれまでのたくさんの経験から、ここで楽をしていると後で痛い目にあうことを分かっています。また、人は一度楽をしてしまうと、元に戻すことがどんなに大変であるかということも十分に知っています。子どもたちがこれから生きていく社会は、不安な要素が多すぎて心配でたまらないと思います。わが子はちゃんと生きていけるのか？人間関係を築けるのか？・・・そこで、タフな生き方のできる子どもに育てていくことを考える必要があると思います。



残念ながら地域ぐるみでの子育てや叱ってくれる大人の存在は、現代の子育ての現場から遠のきつつあります。しかし、人は人との触れ合いによって安心感が生まれ、人を受け入れようとする広い心が育ちます。そんな経験が、叱ってくれた人に「ありがとう」と言える心につながるのです。今後、縦にも横にも幅の広い人間に育てていくために、子どもの進む道を決めるのを、子どもに任せてちょっと待ってみませんか。そして、容量の大きな子どもを育てましょう。

子どもたちは鬼と共に心の邪気を追い払いました！



2月3日(金)に宝小でも節分を行いました。給食に出された「福豆」を鬼に投げつけて、自分の中にいる弱い心と共に鬼を追い払いました。

節分とは、季節の節目という意味で、「立春・立夏・立秋・立冬」の4つの節目がありますが、昔は2月の「立春」が1年の始まりとされていて、立春が今でいう「元旦」なら、節分は「大みそか」とにあたります。そこで、翌日から訪れる新たな1年が、福に満ちた1年になるようにという願いを込めて、2月の節分にだけ、鬼に豆を投げる「豆まき」をするのが習わしとなったのだそうです。

邪気を追い払うために、古くから豆まきの行事が行われています。平安時代に、京都にある鞍馬山の鬼が出て来て都を荒らすのを、大豆で鬼の目を打ちつぶし、災難を逃れたという伝説が始まりと言われていています。豆は、「穀物には生命力と魔除けの呪力が備わっている」という信仰と、ごろ合わせで「魔目(豆・まめ)」を鬼の目に投げつけて鬼を滅する「魔滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあるのです。



現代の子どもたちの払いたい鬼とはどんなものでしょうか？心の弱さ、自分に対する自信のなさ、実行力や決定力のなさ・・・節分を機会に、自分の弱さを自覚して、それを克服するために、目標に向かって取り組むことが節分の意義でもあるかもしれません。

育てよう 科学の心！

今、3年生の間で流行っているのは、磁石を持つての砂場遊びです。磁石を砂の中でかき混ぜると、磁石の先には「砂鉄」が一杯付いています。お父さん、お母さんたちも、きっとこんな遊びをした記憶があるのではないのでしょうか。砂の中に磁石に付く鉄があることに驚き、それを磁石を使って取り出せることで子どもたちの不思議が一つ解決していくのです。こんな遊びの中から生まれる「なぜだろう？不思議だなあ！」という心を大切にしたいと思います。「砂鉄とれたよぉ～・・と匠哉さん」→



全校集会 ～夢は「めざせ体育の先生」～

本校では、月に一度の全校朝礼を各先生方が分担して、その担当した先生の考えた内容で子どもたちに話をしています。2月1日(水)朝の全校朝礼は「2年担任の黒部貴美先生」が担当し、その内容は次のようなものでした。

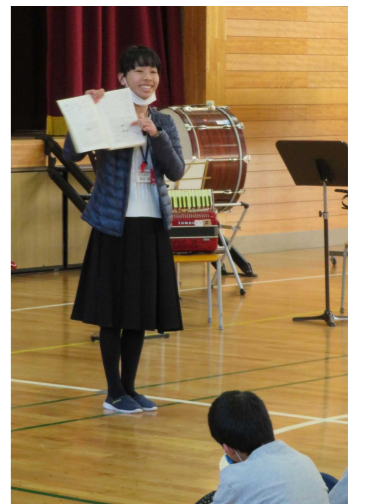
私の子どもの頃の夢は何だったでしょう？

- ①学校の先生 ----- こちらが正解です。
- ②歌手

先生は小学生の頃からずーっと持ち続けている夢が学校の先生だったのです。今、その夢が叶って、宝小学校の2年生と一緒に勉強できて、とても充実した楽しい毎日を送っています。

そんな、夢の基になった小学校五年生の時に書いた作文を紹介します。

私の夢は、中学校か小学校の体育の先生になることです。それは、好きなことを仕事にできたらいいと思ったからです。そして、その好きなことというのが「体育」です。
でも、私は泳げません。今年の夏、やっとの思いで25mを泳ぎました。・・・なので、先生になるという夢を叶えるために「私、泳げるよ！」と言えるように頑張ります。



夢の実現のために
今できることを！

夢を持ち続けること、夢の実現に向かって日々努力すること・・・とても大切なことを黒部先生が自分の体験を通して子どもたちに語ってくれました。これからの教育界を担ってくれる若い先生の話聞いて私自身、夢を持ち続けることの大切さを再確認することができました。

「さあ、これからです。頑張れ 黒部先生！」